

なぜ、「使命感」や「志」を語るリーダーは、
強運なのか

それが、次の第五の心得である。

第五の心得 危機や逆境のときこそ、メンバーに「使命感」や「志」を語る

すなわち、危機や逆境のときこそ、経営者やリーダーは、社員やメンバーに対して、思いを込め、信念を込め、「使命感」や「志」を語るべきである。

ここで、「使命感」や「志」とは、

1

「この仕事を通じて、世の中に光を届けよう。」

この仕事を通じて、社会に貢献しよう。

この仕事を通じて、良き社会を実現しよう」

という思いである。

そして、もし、経営者やリーダーが、この「使命感」や「志」を本気で語るならば、社員やメンバーの心は、必ずポジティブになっていく。

それは、当然であろう。「使命感」や「志」を持つということは、次の思いを心に抱くことだからである。

「自分の仕事には、大切な意味がある。」

だから、その仕事を成し遂げようとする自分の人生にも、素晴らしい意味がある。

そこに、どれほどの危機や逆境があっても、

自分の人生には、大切な意味がある。

素晴らしい意味がある」

すなわち、自らの仕事において「使命感」や「志」を持つということは、「自分の人生は、いかなる危機や逆境のなかにあっても、世の中に光を届けるといふ素晴らしい目標に向かつて歩んでいる」と信じられるということである。そして、そのことを本当に信じるならば、その社員やメンバーの心は、必ず、ポジティブになる。

なぜなら、その思いは、すでに自分の人生を「全肯定」しているからである。

そして、自分の人生を「全肯定」している人間や人間集団は、必ず「良い運氣」を引き寄せる、「運氣」が高まっていく。「全肯定の想念」とは、「絶対肯定の想念」に他ならないからである。

さらに言うならば、「使命感」や「志」を持ち、第二の心得で述べた「自分の人生は『大いなる何か』に導かれている」との信を定めた人間は、いかなる危機や逆境が与えられても、こう考えることができる。

「自分には、『大いなる何か』が与えた大切な使命がある。

そして、『大いなる何か』は、

この危機と逆境を与えることによって、自分を育てようとしている。

自分を育てることによって、素晴らしい何かを成し遂げさせようとしている。

世の中に光を届け、社会に貢献し、良き社会を実現するための

素晴らしい仕事を、成し遂げさせようとしている」

このように、「使命感」と「志」を持った人間と人間集団は、危機と逆境においてさえ、こうした「絶対肯定の想念」を抱き、自らの人生を「全肯定」していく。

そうした人間と人間集団が、さらに強い運氣を引き寄せることは、言うまでもない。

それゆえ、我々経営者やリーダーは、

第五の心得 危機や逆境のときこそ、メンバーに「使命感」や「志」を語る

を、心に刻まなければならない。

そして、経営者やリーダーが、社員やメンバーに「使命感」や「志」を語る時、その言葉は、見事な形で、経営者やリーダーにも戻ってくる。

すなわち、社員やメンバーに、思いを込め、信念を込め、「使命感」や「志」を語ることは、経営者やリーダー自身も、心の中の「自分の人生は、いかなる危機や逆境のなかにあっても、世の中に光を届けるという素晴らしい目標に向かって歩んでいる」というポジティブな想念を強化していくことになり、それは、そのまま、経営者やリーダーの「運気を引き寄せる力」を強化していくからである。

だから、あなたも、一人の経営者として、一人のリーダーとして、この危機や逆境において、まず、思い起こして頂きたい。

あなたが、自身の仕事に込めた「使命感」や「志」を、思い起こして頂きたい。

この『運気を引き寄せるリーダー』というタイトルの本を手にとって読まれるあなたは、きっと、強い向上心と成長意欲をお持ちの方だろう。そして、ご自身の仕事にも、素晴らしい「使命感」や「志」を持って取り組まれている方だろう。

その「使命感」と「志」を、思いを込め、信念を込め、社員やメンバーに語って頂きたい。そのとき、いかなる危機や逆境においても、彼らの眼差しが輝き始めるだろう。

さて、ここまで語ってきた、二つの心得

第四の心得 リーダーの無意識はメンバーの無意識に伝わることを覚悟する

第五の心得 危機や逆境のときこそ、メンバーに「使命感」や「志」を語る

は、経営者やリーダーが自らの運気を引き寄せるだけでなく、自らが率いる社員やメンバーの運気を高めるための大切な心得である。

しかし、危機や逆境において、もし、あなたが、さらに深い次元の二つの心得を掴むならば、あなたは、想像を超えた「強運」を引き寄せるだろう。

それが、これから述べる、第六の心得と第七の心得である。